



Since
1965 Creativity
and
Curiosity

福井高専

青武台だより

平成31年
3月20日発行
NO.218

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology, Fukui College

越路の四季は
めぐりつつ



CONTENTS

- | | |
|-------------------|---------------|
| P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉 | P19 ▶ 校外研修 |
| P4 ▶ 卒業生クラス紹介 | P21 ▶ 遠足 |
| P9 ▶ 修了生クラス紹介 | P22 ▶ 中学校だより |
| P11 ▶ 学生の将来と進路 | P23 ▶ 退職にあたって |
| P13 ▶ 活躍する仲間 | P25 ▶ 学校通信 |
| P17 ▶ 研修旅行 | |

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



卒業・修了おめでとう

校長 松田 理

卒業ならびに修了を迎える本科179名、専攻科30名の皆さん、おめでとうございます。本校教職員、在校生を代表して心からお祝いを申し上げます。また、この卒業生の中にはカンボジアからの留学生1人が含まれています。3年生からの学びでしたが、貴重な経験になったことでしょう。

高専は、中学卒業後の15歳から早期専門教育を行う高等教育機関であり、産業界はもとより国内外から高く評価され、今やこの教育システムが海外にまで展開される状況になっています。本科では大学工学系学部卒業と同程度の内容を、専攻科にあってはより高度で幅広い専門知識と技術を学ぶ場となっています。

皆さんは、多感な青年期に福井高専でこの素晴らしい高専教育を終え、創造的・実践的技術者人材として立派に成長し、旅立とうとしています。現在、社会は情報通信技術の進化により大変革の時代を迎え、その構造は大きく変化しつつあり、消費者ニーズや価値観の多様化も起きています。従って、従来の企業内部で研究開発を行う枠組みとは異なり、社外との連携を積極的に進め、外部から広く技術やアイデアを集めるオープンイノベーションが潮流となっています。そこでは、人間力と共に先を見通す先見性と戦略性、また多様性と柔軟性によって、従来技術を凌駕する新技術の製品化や市場化が行われています。私は、福井高専は単なる知識を伝える場だけではなく、学生が教職員や地域の方々と関わり合って、互いに成長

できる一つの社会であると考えています。皆さんは、そのような場で体験型学習や課外活動、また連携活動を通して育って来ています。その結果として、複眼的視野とともに自主自律の精神に長け、自分で考え、自分で解決する力、また、勤勉性や真面目さに加え、率先して物事に取り組む行動力を身につけているものと確信しています。従って、例え難局と言えども目の前の課題に自信を持って立ち向かって下さい。高いハードルでも恐れることは全くありません。皆さんには潜在的に力がありますので果敢に挑戦してください。失敗しても構いません。むしろ、これからは失敗が奨励される文化が広まつてくるようにも感じています。天才物理学者アルベルト・aignシュタインは *In the middle of difficulty lies opportunity.* と言っており、困難な時こそ成功の絶好の機会であると示唆しています。ただ、その好機にしっかりと対応するためには、日頃からの地道な準備が必要ですので、心して研鑽努力してください。今年の1月に東京で国立高専機構の役員と高専卒業生により「高専の未来を語る会」と題した懇談会が催されたようですが、本校出身者が10人のうち4人も招かれたとのことです。卒業生も頑張っていますので後に続いて下さい。

さて、人生100年時代と言われる今、皆さんにはそれぞれ納得できる人生を送ってもらいたいと思います。そのためには、すぐに答を求めるのではなく、時間のある限り「自ら、迷い、考える」ことを厭わず、習慣にしてください。再思三考の大切さを強調したいと思います。

最後になりましたが、今後もしっかりと地に足をつけ、眼力を磨き、胆力を練って、福井高専の卒業生、修了生であることに誇りを持って活躍して欲しいと思います。

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



教育後援会会長 松田 耕明



進和会会長 野嶋 祐記

輝け、未来にむかって

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様おめでとうございます。教育後援会を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんは中学を卒業し高専という教育機関を選択し、社会で活躍していくための必要な知識、技術を身につけられたことだと思います。社会へ出る人、専攻科や大学に進む人、それぞれの立場で大いに活躍して下さい。就職される方は、社会人となり立場、責任は今までとは大きく異なります。大人としての判断や対応を求められることでしょう。高専で学んだ知識を生かして技術者としての経験を積んで職場で活躍して下さい。進学される方は、更に専門的な知識を身につけ、社会の発展につながるようよりいっそう勉学に励んでください。

みなさんがこれから向かう新しい環境には楽しいことばかりではなく、困難なことにぶつかることもあるでしょう。高専で学び経験したことはあなた方を励まし助けてくれるはずです。ともに学んだ仲間やご指導いただいた先生方はやさしく迎えてくれるはずです。そして最大の味方はご家族であると思います。これまで育てていただいたご家族への感謝の気持ちを忘れないで下さい。これからみなさんが果立っていく中でいつもあなたの心に寄り添い見守っています。何事にも恐れず自分の信念を強くもって前進していくことが家族の希望となります。

最後に皆さんのが幸せな人生をすごしていけるよう心からお祈りしております。がんばってください。

心に太陽を持て

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。進和会を代表して心からお祝い申し上げます。

この新たな門出を迎えるにあたり、期待と不安が交互に押寄せる心境ではないかと思います。これからは人工知能やIoT、ビッグデータなどを利活用する第4次産業革命の波により、技術革新が加速していくでしょう。エンジニアである皆さんも、今後は職場や学校で時代の変化に柔軟に対応していく必要に迫られると思います。また、先端の技術や世界的潮流を感じ取れるアンテナを高く上げておく努力も必要かもしれません。

技術革新は日常生活のあらゆる面を大きく変化させました。情報の入手についてもネット上では確かな情報とかなり偏った情報やフェイクニュースなども混在しています。多くの情報が簡単に手に入る時代となり便利な反面、情報を見極める目も重要と考えます。自分らしさを大切に精一杯頑張ってください!卒業生と修了生の皆様に好きな詩を贈ります。

『心に太陽を持て』

心に太陽を持て。 あらしが ふこうと ふぶきが こようと
天には黒くも、地には争いが絶えなかろうと、いつも、心に太
陽を持て。くちびるには歌を持て、軽く、ほがらかに。自
分のつとめ、自分のくらしに、よしや苦勞が絶えなかろうと いつ
も、くちびるに歌を持て。

苦しんでいる人、なやんでいる人には、こう、はげましてやろう。
「勇気を失うな。くちびるに歌を持て。心に太陽を持て。」

機械工学科

～卒業生クラス紹介～



機械工学科5年担任 **亀山 建太郎**

担任として最後に

卒業おめでとう。これから君達は、大学・就職と今よりも少し自由度の高いフィールドに出ていく事になるわけですが、それに際し、担任としての最後のアドバイスをさせてください。

まずは与えられた事に全力で取り組んで下さい。傍目には面白くなさそうな事も突き抜けると面白くなります(または面白くする方法を考えよう)。本当に面白い事はその後にやってきます。相手が言っている事の意味、自分に期待されている事を考えて行動しよう(ただし応えた方が良いとは限りません)。一緒に活動したい仲間を見つけよう。相手にも一緒に活動したいと思われるようになろう。情報は積極的に取りに行こう。閉じた人間関係の中だけで生活していると心の余裕も思考の幅も狭まります。人のせいにしない。自分でした事、自分に訪れた結果は自分の責任です。自分をコントロールできるようになろう。いつか面白い報告が聞けることを期待しています。

ではネクストステージにて実りある生活を!

機械工学科5年代表 **林 憲輝**

高専での5年間

福井高専に入学してはや5年、私たち34人は今年3月に恐らく卒業を迎えることとなる。この5年を振り返ると、これまでに乗り越えてきた様々な試練が思い出される。過去問とらみ合いながら徹夜した材料力学、テスト中に手がつりそうになった機械工作法、締め切りだけは死守した機械製図。そんな荒波を乗り越えながらも研修旅行、遠足、体育祭、高専祭などイベントごととなると一致団結し、みんなと笑い合いながら過ごしたこの学校生活は非常に楽しく、徐々に卒業に近づくのが寂しく感じる。

これから私は大学に編入し、数年後に社会人となる。社会に出ると、学校で味わったものよりも厳しい試練も数多くあると思う。しかしどんな時でもこの学校で培った知識、技術、忍耐力を糧に、これから自分の人生を自分らしく生きていきたい。

最後に、この5年間クラスのことを気にかけ、支えてくださった亀山先生、手嶋先生、機械工学科の先生方、ありがとうございました。

電気電子工学科

～卒業生クラス紹介～



電気電子工学科5年担任 西城 理志

2つの財産

5年生、専攻科2年生の皆様、卒業おめでとうございます。いよいよ社会に独り立ちするということで、期待と不安に胸が充ちているのではないかと思います。ここでは財産の話を少し書こうかと思います。と言っても、もちろん相続出来るお金の話ではありません。

皆さんが得た財産は、大きく2つあるかと思います。1つ目は皆さんが高専生活を含むこれまでを乗り越えるために身に付けてきた「学ぶ力」です。決して高専で得た知識ではありません。高専で得た知識がそのまま仕事で役立つことは少ないです。しかし課される課題はなかなか大変だったのではないかと思います。この課題を乗り越えた力、それが皆さんの持つ学ぶ力です。社会人になっても勉強は必要ですが、その素地をさんはすでに獲得しているので、自信を持ってください。生半な大学生にはきっと負けません。

もう一つは月並ですが、友人です。学生時代の友人は大事にしてください。悩んだときは共に話すだけで、気持ちが楽になりますよ。

電気電子工学科5年代表 松本 大輝

福井高専で学んだこと

私は福井工業高等専門学校で多くのことを学びました。大久保茂先生からは人生の厳しさを学び、山本幸男先生からは社会人としての基礎を学び、佐藤匡先生からは時間厳守の大切さを学び、米田知晃先生からはものづくりでの段取りの大切さを学び、秋山肇先生からは技術者としてのマナーを学び、荒川正和先生からは他人を許す心を学び、丸山晃生先生からはプログラミングを学び、松浦徹先生からはメモを取る習慣を学び、西城理志先生からはプレゼンのコツを学び、堀川隼世先生からは大人として立ち振る舞いを学び、前多信博先生からは自学自習の大切さを学び、川本昂先生からは“stray capacity”を学び、河原林友美先生からは自分の夢を追いかける大切さを学び、松浦晃祐先生からは脱調してはいけないことを学び、中村孝史先生からはものづくりの大変さを学び、北野公崇先生からは工作機械の使用の難しさを学び、久保杏奈先生からは強電技術の大切さを学びました。

これらを糧に社会で活躍ていきたいです。

電子情報工学科

～卒業生クラス紹介～



電子情報工学科5年担任 川上 由紀

高専生の強み

私が20歳の頃は、まだ進路を決めておらず、なんとなく毎日を過ごしていました。専門科目もそこまで深い内容まで進んでおらず、卒業研究ができるほどの能力はなかったように思います。そんな年で卒業研究をやり遂げた皆さんには「強み」があります。自分で考え試行錯誤しながら作業を進めたり、結果を文章にまとめたり、自分の考えをプレゼンで伝えたり、これまでの授業や実験で身についた能力が卒業研究でさらに向上したのではないかと思う。これは仕事をする上でも大事な能力になります。

あるOBは、高専にいたころはプログラミングが苦手だと思っていたものの、就職してみると周囲よりも出来ることに気が付き、自信が持てるようになったと言っていました。皆さんには、自分で思っているよりも、専門分野の知識や、それを使いこなす能力があります。

5年間やり遂げたことに自信を持ち、これからも仕事に学業に励んでください。卒業後さらに成長した皆さんに会えるのが楽しみです。卒業おめでとう。

電子情報工学科5年代表 石本 優太

桜舞う暁に

あれはあくる日の2014年の春のこと、様々な期待を胸に僕はこの福井高専に入学した。あの日は綺麗な桃色の桜吹雪が舞っていた。僕はあの時、この場所で夢を描き始めるのだと心を躍らせていた。他人との馴れ合いに全く興味はなく、自分を切磋琢磨することだけを考えていた。しかし、流れゆく日々の中で次第にその思いも四季折々に姿を変える桜のように変わることとなる。

血と汗と涙を流しあい、鎧を削った体育祭、互いの英知を集め皆で頑張ったテスト勉強、日を重ねるごとに僕の福井高専という人生のアルバムには思い出が詰まっていた。気が付けばいつも隣には仲間がいた。

そして遂に訪れる別れ。卒業の2文字。幾多の染髪を繰り返しながらも黒に戻った僕の髪も帰る場所を探している。戻れないあの頃の記憶を辿って。リスタートできるなら皆とまたこの場所でやり直したい。

僕らはこうしていくつものさよならをこの先、繰り返すのだろう。でもまたみんなと会えたならただいまって言い合いたい。この桜舞う暁に…。

物質工学科

～卒業生クラス紹介～



物質工学科5年担任 **高山 勝己**

物質工学科5年代表 **酒井 雅輝**

卒業生に贈る言葉

5年物質工学科の皆さん卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。福井高専での5年間はいかがだったでしょうか?今日の卒業を向かえ喜びに満ち溢れていることだと思います。そしてすぐにやってくる新しい世界にちょっと不安を抱いているのではないかと思う私も三十三年前そうでした。

今皆さん、それぞれの道に羽ばたこうとしています。かららの人生を歩んでいく上で、これまでそうであったように、重大な選択を迫られる時があるでしょう。名誉・地位・富を優先するなら、どう考へてもこちらの道が正解だと思える事があるかもしれません。でもそんな時こそ、立ち止まって、知恵を働かせてじっくり考える必要があるということを覚えておいてください。あせる必要はありません。そして、時には損をするような選択となる事もありますが、後になって益となって帰ってくることもあります。

皆さんに次の言葉を贈ります。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」伝道者の書三章一節、「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」伝道者の書十一章一節。若者よ!強くあれ!雄々しくあれ。

人生の往路第5区

私はこの春、福井高専を卒業します。この学校に入学したときの自分は「5年って長いなあ」と感じていましたが、今の自分は、「もう5年過ぎたのかあ」と感じています。そのように感じることができたのも、クラスメイトや、先輩後輩、先生方の存在があってこそだったと思っています。毎年、テストやレポートに追われる度に「先輩方、どうやって進級したんだろう…」と感じていましたが、何だかんだで自分もここまで来ることができました。

「為せば成る」という言葉があるように、やるべきことをやっておけばなんとかなるなど、今実感しています。在校生の皆さんには、この言葉を頭の片隅に入れておいていただけると幸いです。

最後となりますが、お世話になった先生方、高専生活で出会えた仲間たちに感謝し、ここでの経験を生かして、「人生」という駆け抜けたいと思います。今までありがとうございました。

環境都市工学科

～卒業生クラス紹介～



環境都市工学科5年担任 **辻野 和彦**

5Bのみんなに感謝

今から20年前、当時の学科長であった渡辺先生と辻子先生から福井高専に戻って来ないかとの誘いを受けた。渡辺先生は、「自分には全国に1000人以上の教え子がいる。君も学生をつくる仕事をしてみないか?」とおっしゃられた。教員になることを決意し、学生時代の担任であった阿部先生に渡辺先生のコメントを添え、福井高専の教員になりますとメールしたところ、「さすが、渡辺先生だな。自分はまだ学生から教師づくりをしてもらっている。」との返信があった。

時は流れ、3回目の担任として卒業式を迎えようとしている。最初のHRで「進級や卒業は自分で勝ち取るものだ」と断言したのが、つい昨日のようである。毎度のことではあるが、クラスには個性豊かな学生が何人もいた。全員の進路の希望を聞き、みんなの個性と向き合いながら9割以上の学生を第一希望で送り出せることを誇りに思う。きっと、私もみんなから教師づくりをしてもらってきたのだろう。

みんなの担任ができて良かった。ありがとう。卒業生諸君の今後の活躍を大いに期待している。卒業おめでとう!

環境都市工学科5年代表 **勝森 和真**

高専生活を振り返って

福井高専に入学してから今日までいろんなことがあった。新入生歓迎会でカラスのものまねをしたことは今でも覚えている。屈辱的だった。今となっては、あの時語った夢とは異なる職種に就こうとしている。

硬式テニス部にも入部した。最初は、誘われて入っただけの部活も結局最後までやり遂げた。正直、気分屋の私は、行ったり、行かなかったり。それでも辞めなかつたのは、純粋に部活が楽しかったからなのかもしれない。

そして、4年から5年に上がる時に留年もした。今のクラスに落ちてからは、何故か妙な居心地の良さを感じた。なりふり構わず話しかけてくれる、あの感じに助けられていたのかもしれない、今ふと思う。今はうつとしいと思うことも少なくないが。

そんなこんなで、卒業を迎えるわけだが、正直、楽しさ半分、苦しさ半分といったところ。しかし、これもいい経験だったと一括りにしてしまえば、そんなに悪い気はしない。

最後に、笑いが絶えないクラスメイトの諸君、最後までお世話をいただいた教職員の皆様、今日まで本当にありがとうございました。楽しい高専生活でした。

生産システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



生産システム工学専攻主任 **斎藤 徹**

各自の得意分野を活かしたチームワーク

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。

私自身、初めて専攻科の担当となり、創造デザイン演習も担当しました。この科目では、何が求められているのかを考え、様々な制約条件を踏まえ問題点を整理し、3D-CADなどを使って試作などと、アドバイスする立場の私でも大変と思うことを皆さんには違う学科・専攻の人たちとグループで完成させていました。

こういった異分野の人とのグループワークは、知識の幅を広げると共に、自分の得意な専門分野で何ができるのかを考える良い経験になったかと思います。社会に出れば、さらに幅広い分野の方と仕事をすることも増えるでしょう。でもその中で自信を持って活躍していくためには、常に新しい知識を得ようとする貪欲さと、その知識を自分の得意分野で活かす方法を常に考えることが求められてきます。

最後に、グループワークや同じ研究室や指導の先生とのつながりも大切にしながら、新しい場で活躍されることを期待します。

生産システム工学専攻2年代表 **河元 佑輝**

修了生から見る専攻科

高専の本科とは、変化の少ない環境に見えます。四年間変わらないクラスメイトや教員と、自身の専門分野をひたすら学んでいたように思えます。専攻科では、グループワークが非常に多く、異なる専門分野の人間と共にものづくりをします。そこでは自身の分野の人間は自分しかおらず、成績の優劣に関係なく、その人がやらねばならないという状況になります。また、発案・企画から実際に物を作り、発表まで自分たちだけで行います。これにより、自身の役割に対する責任感や他者とのコミュニケーション、他分野の人間の考え方から、いろんな発見があると思います。本科では学べないこういった部分が、高専生と大学生を比較されたときに、高専生が足りない部分だと実感しました。

企業が学生に求めるものと、学生が自身に足りないと思う点にはギャップがあり、企業は社交性が、学生は専門知識が足りないと思うそうです。社交性に自信が無い方は、それが学べる専攻科という選択肢も良いのではないでしょうか。

環境システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



環境システム工学専攻主任 吉田 雅穂

祝20期生！

専攻科修了、おめでとうございます。君たちが2歳の頃、本校で専攻科が生まれました。時は流れ君たちは第20回目の修了生となり、これまでに輩出された492名の先輩修了生の仲間入りを果たします。

福井出身の漢文学者白川静先生の『字通』によると、[専]は「橐(ふくろ)の中に入れる」、[攻]は「工(工具)を用いて器を作ること」とあります。合わせた[専攻]は「専門に研究する」という意味になるそうです。[専門]は「特定の経書・学科を修める」、[研究]は「しらべつくす」とあります。君たちは、本科で学んだ専門を基に特別研究で研究力を高めてきました。また、専門にとらわれない融合・複合されたカリキュラムの中で、自主的、能動的、創造的に課題に取り組む力を身につけ、ものづくり・環境づくりの得意なエンジニアの卵に育ちました。自信を持ってください。

修了する今年は新元号となる節目であり、生涯きっと忘れられない年になるでしょう。その時をマイルストーンとして、3年後、10年後、20年後の自分の成長を確認するように心がけると、きっと、専攻科時代の記憶が活かされます。今後の成長と活躍を期待しています。

環境システム工学専攻代表 勝見 大雅

充実した学生生活

7年間の学生生活を振り返ると入学した頃と比べて心身ともに大きく成長できました。特に、専攻科での2年間で多くのことが身についたと実感しています。授業では他専攻の人とグループワークをするので専門分野のことを分かりやすく話す説明力が身につき、また、専門分野以外のことも学習できたので物事を考えるときの視野も広がりました。他専攻の人と意見交換できることが専攻科の魅力の一つです。授業以外では、クラスでBBQをしたり、交流会でお菓子を組み立てたりしました。他にも、毎日一緒にお昼ご飯を食べたり、くだらない話で笑いあったり、一緒にいるだけで楽しい友人たちがいたので学生生活がとても充実していて、それすべてが大切な思い出です。そのくらいこの7年間は私の人生の中でとても貴重なものであり、高専に入学してよかったです。

これからは社会人として一人前になれるよう精進していきたいです。最後になりましたが、今まで指導していただいた教職員の方々、本当にありがとうございました。

～学生の将来と進路～

平成30年度 進路内定状況報告

キャリア支援室長 加藤 寛敬

近年の本校の就職希望者の割合は6割程度で推移しており、平成30年度の割合は全体で63.6%でした。その内、県外希望者が63.9%となっています。また、就職活動のスケジュールは前年度と同じで、広報活動の解禁が3月、採用活動の解禁が6月でした。しかしながら、企業によっては実質的な採用活動を年度当初から実施しているケースが多くみられ、実際の就職活動では早い時期から情報収集や準備が必要でした。

本校への求人数は5,394社で、前年度と比較して若干増加しましたが、その増加の度合いは少し落ち着いてきました。慢性的な人手不足から、この高い求人倍率はしばらく続くと思われます。しかしながら、求人倍率が高いからと言って油断は禁物です。この求人数はあくまでも優秀な人材であれば採用したいという条件付きの数字で、実際に採用する人数ではありません。現に、募集人数に達していないても求める人材でなければ採用を見送る企業が多くあります。

一方、進学の状況ですが、本科の進学希望者は、専攻科進学が31名、大学編入学が35名でした。また、専攻科から大学院への進学希望者は5名でした。なお、専攻科・大学・大学院入学試験の合格者の内、推薦が64.6%でした。

進路決定において大切なことは、自己理解と職業理解と言われています。自分の強み・適性・こだわり・価値観などの自己分析と、自分が活かせる業界・企業・職種・仕事などの職業研究をしっかりと行うと、就職活動がスムーズになります。また、進学でも、日頃から基礎学力を身に付ける努力を継続するとともに、早い時期から試験対策を行うことが重要です。

最後に、本校のキャリア教育にご尽力いただいている関係教職員および保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



平成30年度 進路内定状況

平成31年1月25日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数	進学希望者数	内定者数			未定者数	就職希望者数	内定者数			未定者数	その他
				大学・大学院	専攻科	その他進学			県内	県外			
本科	機械工学科	34 (5)	13	10	3		0	21 (5)	4 (1)	17 (4)	0	0	0
	電気電子工学科	42 (2)	10 (1)	4	5	1 (1)	0	30 (1)	4	26 (1)	0	2	
	電子情報工学科	31 (6)	12 (1)	5	7 (1)		0	19 (5)	11 (2)	8 (3)	0	0	
	物質工学科	32 (15)	15 (4)	7	7 (3)	1 (1)	0	17 (11)	10 (7)	7 (4)	0	0	
	環境都市工学科	40 (14)	18 (5)	9 (3)	9 (2)		0	21 (9)	6 (2)	15 (7)	0	1	
専攻科	小計	179 (42)	68 (11)	35 (3)	31 (6)	2 (2)	0	108 (31)	35 (12)	73 (19)	0	3	
	生産システム工学専攻	16	1	1			0	15	5	10	0	0	
	環境システム工学専攻	14 (4)	4 (1)	4 (1)			0	10 (3)	8 (3)	2	0	0	
	小計	30 (4)	5 (1)	5 (1)			0	25 (3)	13 (3)	12	0	0	
合計		209 (46)	73 (12)	40 (4)	31 (6)	2 (2)	0	133 (34)	48 (15)	85 (19)	0	3	

※表中の()は女子数で内数

～学生の将来と進路～

▶ 平成30年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

平成31年1月25日現在

大学等	学部等	学科	機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物資工学科		環境都市工学科		合計	
			推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
長岡技術科学大学	工学部	2	2			2					1		5	2
信州大学	工学部										1		1	
信州大学	理学部						1							1
山梨大学	工学部									1				1
千葉大学	工学部			1									1	
東京農工大	工学部		1							1				2
金沢大学	理工学域	2	1	1						1	1		4	2
福井大学	工学部							1			1 (1)	2	2 (1)	2
岐阜大学	工学部								1					1
滋賀県立大学	環境科学部										1 (1)		1 (1)	
名古屋大学	工学部								1					1
豊橋技術科学大学	工学部	3		1		1		2	2	1	2 (1)	8	4 (1)	
三重大学	工学部	1												1
岡山大学	工学部				1									1
広島大学	工学部				2									2
九州大学	工学部			1		1								2
富山高専専攻科	制御情報システム工学専攻						1							1
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	1	2	4	2	5 (1)	2						10 (1)	6
	環境システム工学専攻							6 (3)	1	9 (2)			15 (5)	1
合 計		9	6	8	5	9 (1)	4	9 (3)	8	14 (3)	5 (2)	49 (7)	28 (2)	

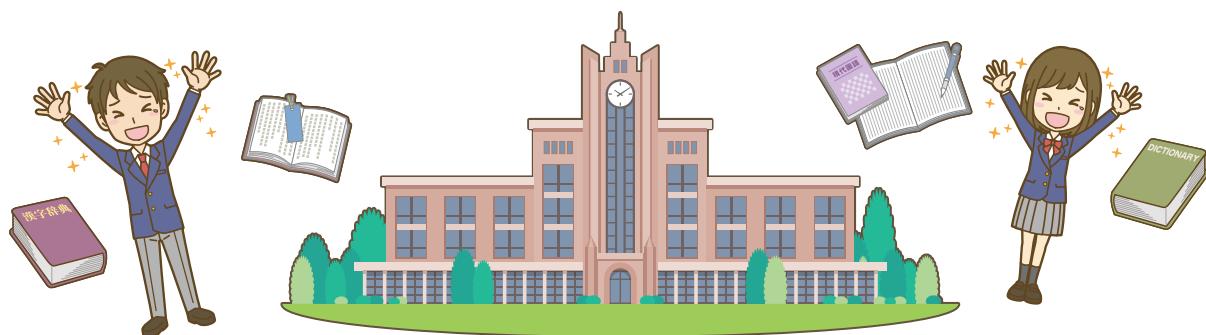
※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

▶ 平成30年度 大学院入学試験合格状況

平成31年1月25日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合 計	
		推 薦	学 力	推 薦	学 力	推 薦	学 力
金沢大学大学院自然科学研究科				1		1	
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科					1		1
北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科	1			1		2	
福井大学大学院工学研究科				1 (1)		1 (1)	
合 計		1		3 (1)	1	4 (1)	1

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。



～活躍する仲間～

平成30年度 優秀学生賞受賞者一覧



日本機械学会富山賞

機械工学科5年

林 憲輝

公益社団法人
計測自動制御学会北陸支部
優秀学生賞

機械工学科5年

山口 剛典

電気学会北陸支部
優秀学生賞

電気電子工学科5年

松本 大輝

一般社団法人
映像情報ゲッヂ学会北陸支部
優秀学生賞

電気電子工学科5年

窪田 圭佑

公益社団法人
日本電気技術者協会北陸支部
優良卒業生

電気電子工学科5年

樋 大弥

電子情報通信学会北陸支部
優秀学生賞

電子情報工学科5年

松村 大輝

情報処理学会北陸支部
優秀学生賞

電子情報工学科5年

石本 優太

公益社団法人
日本化学会近畿支部
優秀学生賞

物質工学科5年

伊藤 沙也加

公益社団法人
日本化学会近畿支部
優秀学生賞

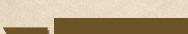
物質工学科5年

藤田 結衣

日本分析化学会中部支部
優秀学生賞

物質工学科5年

竹澤 亮真

全国高専土木工学会
近藤賞

環境都市工学科5年

森 真七会

日本建築学会北陸支部大会
若手優秀
プレゼンテーション賞

環境都市工学科5年

高橋 未紗



Special Interview**～活躍する仲間～****平成30年度 キャンパスプロジェクト採択一覧**

学年	学科	代表学生	テーマ	連絡教員
4	環境都市工学科	瀧 蒼馬	校内清掃プロジェクト	相場 大佑
3	環境都市工学科	井波 大地	駐輪場をつくろう～パート2～	辻野 和彦
3	環境都市工学科	三浦 慎嗣	学生寮(南寮)駐輪場の風雨対策としての囲い設置	田安 正茂、金田 直人
3	環境都市工学科	岡田 瑠璃葉	木工の匠 Wooden Boards for School Life	野々村 善民
2	生産システム工学専攻	前田 勝紀	宣伝・広報を目的としたデジタルコンテンツ制作	小松 賢大
1	機械工学科	武村 帆香	F3クラス全員で行う「ものづくり」	門屋 飛央
2	電子情報工学科	鈴木 智也	校歌普及委員会	川上 由紀
2	環境都市工学科	鈴木 敬太	高専のジオラマを作ろう	佐藤 勇一
3	機械工学科	山下 敦生	自作ニュートン反射式望遠鏡(ドブソニアン)の製作	村中 貴幸

平成30年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要報告

環境都市工学科4年 瀧 蒼馬

物質工学科2年 川端 優生

校内清掃プロジェクト

この校内清掃プロジェクトは、昨年度から学生目線で清掃してほしいと思った箇所の清掃を行ってきた。今年度は昨年度と同様、銀杏拾い及び道路清掃、校内の排水溝清掃を行った。また、それらに加え、環境都市工学科棟の横にある骨材置き場の清掃を行った。銀杏清掃は、昨年度は車につぶされて道路にこびりついた銀杏の除去が大変だったので、銀杏が車につぶされる前にすることにした。しかし、八月に発生した台風20号によって、清掃する前に銀杏が大量に落ち、道路が汚れて清掃に時間がかかってしまった。骨材置き場の清掃では、汚れ・カビ・蜘蛛の巣などを除去した。また、板・ブルーシートがこれまでの台風や大雪などで腐食し壊れていたため、環境都市工学科の阿部先生と相談し、骨材置き場に新しい屋根、骨材を取り出しやすい扉を設置するなどの計画を立てた。来年度のキャンパスプロジェクトでは、骨材置き場の整備・改良を中心に清掃活動を続けていきたい。

駐輪場の屋根づくり

今年のキャンパスプロジェクトでは、昨年度に引き続き野球場横の駐輪場を整備した。昨年度はコンクリート土間を作ったので、今年は屋根づくりを企画した。

単管パイプを切断し、電動ドライバを用いて波板をビスで固定するという作業を野球部員が協力して行った。パイプを切断する長さを間違えたり、積雪により屋根にかかる荷重を考慮できていなかったりといいくつかのトラブルもあったが、屋根は3スパン分を完成させることができた。しかし、単管パイプやクランプを補強用の材料に流用したので、駐輪場は1スパン分しか完成させることができなかった。

この経験を通して、最初の段階で設計をしっかり行うことの大切さを学んだ。残りの2スパン分は、今年の反省点を活かして次年度に完成させて欲しい。また、このキャンパスプロジェクトでチームワークの重要性を再認識した。来年度も県大会でも勝ち上がれるよう頑張りたい。本年度もキャンパスプロジェクトに採択頂きましてありがとうございました。

Special Interview

環境都市工学科3年 三浦 憲嗣

学生寮(南寮)駐輪場の風雨対策としての囲い設置

学生寮(南寮)駐輪場は屋根だけの構造であるため、風雨により駐輪する自転車が濡れるうえ、転倒してしまっていた。そのため本プロジェクトでは、風雨対策の囲いを設置し、駐輪環境を改善することを目的とした。

今回行った活動は、学生寮(南寮)駐輪場の一部区画に新しく柱を取り付け、壁を設置した。しかし完全に壁を覆ってしまうと、壁自体が風の影響を大きく受けてしまうため、駐輪場上部及び下部に隙間を開けた。これにより、落ち葉などが囲い内に侵入してきても、簡単に取り除くことができる。

本プロジェクトで設置した風雨対策としての囲いは、学生寮(南寮)駐輪場のほんの一部分である。しかし、設置後の様子としては、たくさんの自転車が好んで囲い内に駐車し、雨が降った際、囲い内の自転車はほとんど濡れておらず、また、倒れていることもなかった。

依然として風雨に晒されている自転車が多いため、今後何年かにわたり少しずつ囲いを増築していくと考えている。

環境都市工学科3年 辻岡 理仁

木工の匠 Wooden Boards for School Life

私たちはキャンパスプロジェクト 木工の匠 Wooden Boards for School Life として、「匠ラボ」と「学生ラウンジ」の壁一面に福井県の杉板を用いた内装壁を設置しました。これによって、コンクリートの壁に囲まれ殺風景であった部屋は温もりのある空間となりました。学生ラウンジに入ると、木の香りがしてリラックスすることができます。私が今回のキャンパスプロジェクトで苦労したと感じた点は、壁の仕上げ材である杉板を切り出す事でした。数百枚の板を切り出すことだけでも大変なのですが、下地材を貼るといった他の作業を進めながら板を切り出していくことは、単純作業でありながら、考えることが多く苦労するようになりました。このような苦労を乗り越え、効率よく作業を進めるという能力を養えたと私は思います。このキャンパスプロジェクトで、学校の壁をより良いものにできただけなく、自分自身の能力を伸ばせたことは大変良い経験になりました。

生産システム工学専攻2年 前田 勝紀

宣伝・広報を目的としたデジタルコンテンツ制作

今回行ったキャンパスプロジェクトでは、プロジェクトマッピングとMRによる作品の制作を行った。プロジェクトマッピングとは、プロジェクター映像を建物といった物体に合わせて投影するものである。本館と管理棟の部分を用いて行うことを見定し、10分の1スケールのモデルを作成しそれに投影テストを行った。プロジェクターからの映像の歪みや、設置の状態によって映像と実物にズレが生じ、それを修正するのに苦労した。MRとは複合現実とも呼ばれ、現実空間と仮想空間を重ね合わせ、リアルタイムで同時に体験できるというものだ。自分の体が映像に反映されブロック崩しといったゲームが行えるものや、自分が滝の中にいるように感じられるもの、自分の声が文字となって飛んでいくものを作成した。作品は実際に高専祭で展示を行い、とても好評であった。近年、AR、VR、MRの活用が盛んに行われている。これら最新の技術を、キャンパスプロジェクトを通じて行えることはとても価値があると感じた。

機械工学科1年 武村 帆香

F3クラス全員で行う「ものづくり」

私たちF3クラスでは、学校生活をよりよいものにするために、6グループがそれぞれ便利だと思う製品を設計し実際に制作しました。作ったものは「冷却装置付き自転車」「充電器付き筆箱」「段ボール机」「手が濡れない傘」「炭酸が抜けにくいペットボトルホルダー」「指につけられる黒板消し+紙めくり」です。安全性やコスト、制作にかけられる期間、対象にすることなどを考え、柔らかい素材を選んだり、大きさごとに数種類ずつ制作したりと、各グループで工夫を凝らしました。副担任の金田先生にもアドバイスをいただき、製品化に関するプロセスも学ぶことが出来ました。どれも実際に使ってみて、設計段階では考え付かなかつた問題点が沢山見えてきました。これらの改善すべき点を踏まえてより良いものづくりを目指して行きたいと思います。また、今回ものづくりを行うにあたって、多くの方々からご支援を賜りました。ここに感謝の意を表します。

Special Interview

～活躍する仲間～

電子情報工学科2年 鈴木 智也

校歌を高専生に広める

高専生なのに、福井高専の校歌を知っている人が少ない。そんな問題を解決するために、校歌普及委員会では、校歌をモチーフにしたリズムゲームの開発を行いました。リズムゲームは通称“音ゲー”と呼ばれ、ゲームセンターに置かれるものにとどまらず、最近ではスマートフォンでも遊べるもののが出てきました。私たちは、ゲームセンターに置かれるような常設型のものを想定し、誰もが簡単にプレイできるようにしたいと考えています。報告会では、リズムゲームとしては遊べるもの、安定性や、豪華さ、ゲーム性など随所に課題が残る出来となっていました。特にゲーム性の面では、多くのスマートフォンゲームを知っている高専生を満足させるためにリズムゲーム要素以外の要素を入れる必要があると思います。そのため、校歌普及委員会では校歌を広め、皆様に楽しんでもらえるクオリティにするためにこれからも改良を続け、いずれは高専のどこかに常設できるゲームを目指したいと思います。

環境都市工学科2年 鈴木 敏太

ジオラマ制作の楽しさと難しさ

今回2018年キャンパスプロジェクトに参加させていただき、とてもすばらしい経験となりました。私たちは、学生に自分たちの学校に対する興味・関心を抱いてもらうために、福井高専の1/150スケールジオラマを作成しました。メンバーは全員が二年環境都市工学科の学生で、「安全で楽しく！」をモットーに作業を進めました。

仲間と協力してものづくりをして、とても多くのやりがいや楽しさを感じましたが、辛いことも多々ありました。ジオラマを作ったことがなく、試行錯誤を繰り返し、それでもこうして実物が出来上がっていることを考えると、「大変だったけどやってよかったなあ」と感じます。そんなジオラマの見どころは、実際に測量しているので、位置関係の精度が高いことや、随所に人形などがちりばめられていることです。

キャンパスプロジェクト「高専のジオラマをつくろう！」に協力していただいた皆さん、本当にありがとうございました！

機械工学科3年 山下 敦生

自作型反射式望遠鏡の製作

今年度のキャンパスプロジェクトで、私たち天文同好会のメンバーは、「ドブソニアン」と呼ばれる自作型の反射式望遠鏡を作りました。

望遠鏡の製作を通して私たちは、「企画、設計、加工・組立、検査」というものづくりの工程を学び、製品ができるまでには何が必要で、どのように問題を解決していくかなど、普段は意識することのない視点を身に付けることを目指しました。発足当初はほとんどの人が集まりましたが、回数を重ねていくと二、三人しか集まらないときもあり、人手不足に苦労しました。また、仮組みの途中で何箇所か寸法の間違いが見つかりました。ほかの人に図面を確認してもらっていたら防げたかもしれません。コミュニケーションを積極的にとり、確認しあうことは大切だと思い知りました。実際に企画や設計をしていくと、物理学や専門科目で学んだ知識を使い、計算したり作図したりする機会がありました。もともと望遠鏡は、構造自体は簡単で、さらに今回製作した望遠鏡は自作型で、市販の望遠鏡に比べて部品数は少ないのでですが、物理や専門科目で学んだ知識が役に立ちました。より複雑な、世の中にある工業製品は様々な専門的な知識や技術が活かされて成り立っているのだろうと実感をしました。

学生生活の中で、複数の人で作りたいものを一から作るという機会は少ない気がします。高専生は将来、ものづくりに携わる仕事に就く人が多く、チームでのものづくりをしていくという経験を学生のうちにしておくことが大事だと感じました。最後に、ご支援いただいた教職員の方々に御礼申し上げます。



Special Interview**～研修旅行～****研修旅行について**

機械工学科3年 松原 将輝

見学旅行について

私たちが見学させて頂いた企業は、大和製罐(株)、三菱重工業(株)下関造船所、新日鐵住金(株)八幡製鉄所、日産自動車九州(株)です。4つの企業を通して学んだことは、製品を作るにあたって品質の良いものを作るのは当たり前のことでですが、最も重要なのは安全第一で取り組むことです。私たち機械工学科は、実習などをしますが、安全に配慮していくも常に意識して取り組めているか疑問が残ります。もっと技術を習得し、安全作業を心掛けて、人々が安心して使えるような製品を作れるようになりたいと思いました。また、工場の中に入ると流れ作業によって製造が行われていて、機械が缶から自動車まで幅広い製品を作れることに驚きました。

クラス全員でご飯を食べたことや、太宰府天満宮への参拝、温泉、動物園などで楽しく過ごすことができたのでとても良かったです。見学旅行でみんなの仲がさらに深まったように感じました。

みんなで一つの行事を無事に終えることができたので、からの学校生活でもクラスで一致団結をして、このクラスから留年生が一人も出ないように頑張っていきたいと思います。

電気電子工学科3年 北川 雄大

これからの社会に必要なこと

私たち電気電子工学科は、日本電気硝子株式会社・株式会社ダイヘン・アサヒビル株式会社の3社を見学させていただきました。各見学場所では、普段授業で習っている分野の知識よりもさらに深みに入った専門的な講義や、今現在どのような人材が求められているかなどのお話を聴き、自分たちの勉強不足を感じると同時に、これから専攻する分野選択や自分たちの将来設計について改めて考えるきっかけにもなりました。

お話を聞く中で私が最も重要だと感じたことがあります。それは、「様々な分野に興味を持つ」ということです。私たちが普段学んでいる電気科の知識に加えて、他の専門分野についての知識がないと、社会において依頼者側との理解の一致が難しくなることがあるかもしれません。そのため、私たちが現在取り組んでいる学際領域は実社会で必要な他学科の専門を学べる良い機会であると再認識しました。

私は、この研修旅行を通して、「高専で学んでいるどのようにして社会に生かされているのか?」「働くとはどういうことなのか?」といったことを学ぶと共に、「もっと様々なことを学びたい」と思うようになりました。それは、この4日間で工学の本当の素晴らしさを知ることが出来たからだと思います。



Special Interview**～研修旅行～****研修旅行について**

電子情報工学科3年 村橋 達也

物質工学科3年 久島 輝

研修旅行で見つけられたこと

私たちは、企業見学として、日立ソリューションズ東日本様、産業技術総合研究所様、Sony Music Entertainment様、Microsoft様、チームラボ様、また、筑波大学様の見学、さらに、ディズニーアカデミー様の講習と、様々な場所を訪問し、様々な事柄を学び、体感することが出来ました。

担任の以前の勤務先ということもあり見学させて頂いた日立ソリューションズ東日本様では、実際に勤務されている3名の方々の体験談や就職に関するアドバイスなど、働くことの彼はを聞かせて頂きました。

チームラボ様では、私たちが学ぶ「電子情報」の分野を生かした仕事と働き方について教えて頂きました。

ディズニーアカデミー様では、実際に東京ディズニーリゾートで働くキャストの方々から、訪れたゲストを満足させるために実践している取り組みについて講習して頂き、その内容を、実際にTDS内に入り、自分の目で確かめることができました。

研修旅行を通して、各々が今後に生かせる何かを見つかったと感じています。また、研修旅行中に起きた様々なトラブルや、過密スケジュールを通して、クラスの仲が深まった気がします。最後に、研修旅行に関わってくださった方々、本当に有難うございました。

**見学旅行について**

私達のクラスは株式会社ファンケルの滋賀工場と株式会社明治の明治なるほどファクトリー関西に行きました。ファンケルでは主に化粧品の製造工程を、明治では主に乳製品の製造工程を見学させていただきました。両工場とも思ってた以上に徹底した衛生管理が行き届いて、その中で社員の方々がテキパキと作業している姿がとても印象的でした。

その後、私は熊本県で飯屋めぐりをしました。熊本県といったら馬刺し。私も例に漏れず馬刺しを食べに行きました。私が行ったお店は隠れた名店のような佇まいひっそりとお店を構えていました。「雰囲気からしていい店だ!」と思いいざ入店してみるとそこは私の想像通りのお店でした。落ちていた雰囲気で月の光がかすかに差し込むような感じ。なんともいえない安心感がありました。お目当ての馬刺しを注文し、待つこと十五分。遂にその品が私の机に運ばれてきました。光で反射しきらめく油。見るからに美味しそうでした。いざ口の中に入れてみると馬独特の芳醇な香りが鼻腔通り抜け口の中いっぱいに肉の味が広がりました。美味しさのあまり気づくと肉は残り一枚。最後の一枚を噛み締めて食べ、お会計を済ませ店を出ました。私はお店を出た後その味が忘れられず他のお店に馬刺しを食べに行きました。ですが初めの店の味が一番美味しい、その味は今でも記憶に鮮明に残っています。



Special Interview**～研修旅行・校外研修～****研修旅行について**

環境都市工学科3年 柴田 充規子

見学旅行について

今回の研修旅行では、主に九州での見学でした。大和ハウス工業技術研究所や、産業技術研究所などの研究所や、ダイダンといった企業を見学させていただきました。また、大学を見学させていただきました。

その中でも、私はやねだんの見学がとても心に残りました。やねだんとは、鹿児島県鹿屋市串良町上小原にある、柳谷という集落です。やねだんの見学が心に残った理由は2つあります。1つ目はやねだんを作り上げた豊重さんの話し方が上手だったからです。豊重さんの伝え方には熱があり言葉1つ1つに重みがあり、自然と集中して聞いている自分がいました。2つ目は、やねだんの地域再生方法です。まず、豊重さんは自主財源を稼ぐことにし、そこから地域を再生させようと考えます。そのために、地域全員で農業生産活動を行っていけるように住民一人一人の名前、顔を覚え、家族の様に接してきました。そうすることで、住民が一丸となり地域再生を行えたのです。

このように、伝え方や、人との接し方について、とても勉強になりました。また、今回の見学で共通していたことは、大学や企業で働いてる方、好きなことをしている方々の顔は輝いていました。私は就職を考えているので、私も輝けるようにこれからも頑張りたいと思いました。

**校外研修について**

電気電子工学科2年 井上 優良

巨大設備と精密部品

校外研修の朝、僕は楽しみすぎて、犬が尻尾を振るように、僕はキラキラと目を輝かせていた。いつも以上に大きな声で親に行なります！と言って家を出て行った。

学校に着くと、みんなの表情には希望と幸せに満ちていた。バスに乗るとクラス長がハロウィンのお菓子を配り始め、九頭竜ダムまでの道のりを楽しく過ごした。

ついに九頭竜ダムに到着。そこには今まで見たことない大きな設備、トンネルがあり、高専生の目には自分達が将来働いてる姿が目に浮かんだのか、すいません！あれほどのような機能を持つんですか！と質問が相次ぐ。説明してくださる方々も丁寧に細かく応えてくださいました。

ダムの見学が終わると外でクラスの集合写真をパシャリ。とても青春を感じたひと時だった。フクタカに行く途中道の駅で昼ごはんをパクリ。そしてフクタカに到着。まずは会社の方々が会社の概要などを説明してくださった。そのときのみんなの目は真剣そのもの。その後、実際に工場の中へ行くと大きな機械から作られる小さな精密な部品。物作りのすごさを目に焼き付けた。最後に高専出身の会社員さんの話を聞いた。高専での思い出も交えながら楽しく聞くことができた。とても良い日になった。



Special Interview**～校外研修～****校外研修について**

物質工学科2年 室田 彩乃

校外研修報告

昨年10月31日の校外研修で日華化学株式会社と清川メッキ工業株式会社を見学する機会を得ましたので、その報告をさせていただきます。

最初に、日華化学株式会社に伺いました。1年前に竣工となった日華化学の新社屋に1歩足を踏み入れると、そこはとにかく綺麗でした！オフィス全体が驚くほどオシャレで清潔感に溢れていて、職場の働きやすさや、人材の育成、海外との繋がりを大切にされていることもわかりました。高専卒業生の先輩方の案内の他に質問会もできて、会社の素晴らしい姿をひしひしと感じながら午前の見学を終えました。

エンゼルランドで昼休みを過ごした後は、清川メッキ工業株式会社を訪問させていただきました。

バスを降りて入り口に向かうと、常務さん自らも私たちを迎えて下さり、清川メッキ工業の技術や製品は私たちが知ら

ない分野でも世界的なニーズがある、とてもすばらしい会社であることがわかりました。見学・説明会の最後には「ぜひこの会社で働いてください」とお話しされるなど、高専生を必要として下さる想いを感じることができました。実際に、清川メッキ工業の社員である高専OB・OGの方々も、独自性を持ったものづくりのプロとして会社の最前線で働く姿も見られて、これはとても嬉しいことでした。

今回は、とても密度の濃い見学の1日となりました。このような形で、素晴らしい会社を見学させて頂き、また就職の門戸も開かれているということは本当にありがたいことです。今後はしっかりと勉強に励まなければと思いつつ、研修報告を終わらせていただきます。

▶ 平成30年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学 科	研修先	引率者
10月31日(水)	機 械 工 学 科	兵神装備株式会社 日本電産テクノモータ株式会社	青木 宏樹 千徳 英介
	電 気 電 子 工 学 科	電源開発株式会社 九頭竜電力所 株式会社フクタカ	長谷川 智晴 松浦 徹
	電 子 情 報 工 学 科	パナソニック株式会社 AIS社 デバイスソリューション事業部 株式会社ナチュラルスタイル	挽野 真一 村田 知也
	物 質 工 学 科	日華化学株式会社 清川メッキ工業株式会社	吉田 三郎 松野 敏英
	環 境 都 市 工 学 科	株式会社フジタ	佐藤 勇一 江本 晃美

Special Interview**～遠足～****遠足について**

F1 伊部 実由布

満腹で満足の遠足

F1の遠足はラポーゼかわだに行った。行き先は先生によって決められた。私は、金沢に行って自由行動とかだろうなあと勝手に考えていた。だから行き先を伝えられた時は、ええ～と思ってしまった。でも調べてみるとバーベキューができたり温泉に入れたり、意外に楽しそうで遠足の日が待ち遠しくなった。

バーベキューは食材持ち込みOKだったので前日に買い出しに行った。あれにしようやっぱりこれにしようと悩みながらも楽しく選んだ。結局チーズや餃子、マシュマロなどを買った。当日、バーベキューのセットで付いていたお肉や焼きそばが予想以上に多く、満腹になった。また、みんなでしゃべりながら焼いたお肉はとても美味しかった。その後、鉄板を取って焼き芋をした。焦げ焦げになってしまった(笑)取り除いてはみたものの、焦げ臭くてみんなで苦い顔をしながら食べた。また、焼きマシュマロもした。やっぱりこれは最高に美味しかった。

ラポーゼかわだに行って、クラスみんなで話したり遊んだりできてこの場所でよかったです。また、お腹いっぱい食べることができてとても楽しい大満足の遠足になった。

F3 吉田 創

出費たったの800円

僕たちF3クラスの遠足は、事前の行き先決めて担任の門屋先生との意見が中々合わず、最終的に行き先は「エンゼルランド」に決まったが、僕もクラスの皆もあまり乗り気ではなかった。

しかしエンゼルランドは、鯖江から往復でたったの800円程度で行けて、更にまさかの入場料無料というこれ以上ない程最高のアミューズメントパークであった。とても広い芝生の上には、カラフルな土管や滑り台を兼ね備え、階段を上れば2階もある大きな木製遊具である「こどもの村」、巨大なトランポリンである「こどもの雲」があり、建物の正面に大きくそびえ立つ日時計のまわりには「噴水ひろば」があった。僕達は子供心をくすぐられ、そこで鬼ごっこなどをして遊んだ。他のクラスの金沢やBBQも羨ましかったけど、久しぶりに友達とはしゃいで遊ぶことができたので、とても楽しかった。皆の私服姿は、皆それぞれ個性が出ていて、新たな一面を見ることができて良かった。

また、その日はハロウィンだったので、乗り気でなかつたクラスの雰囲気を良くするためにコスプレのメガネを持ってきた門屋先生を見て僕は感動した。ぐだぐだなスタートではあったが、F3クラスの遠足は良い思い出になったと思う。



Special Interview

～中学校だより～

* * 「美山しぐさ」を柱とした生徒主体活動 * *

福井市 美山中学校

昭和35年に、下宇坂・芦見・羽生・上味見・下味見・上宇坂の6つの中学校が統合して、美山中学校は開校した。福井市東部に位置し、山は青々と茂り緑がとても鮮やかな環境にある。校区は広く、63名在籍する生徒の多くはバスで通学している。平成16年には福井豪雨で大きな被害を受けたが、県内外からの多くの支援を受け乗り越えてきた。自然災害に対して地域の意識はもとより、生徒の意識は非常に高い。

人間尊重の精神、ふるさとを愛する心を基調に、気力・学力・体力の充実した心身ともに健康で明るくたくましい生徒(ゆかしい文化人・たのもしい社会人・たくましい生産人)の育成という教育目標を掲げている。特に、伝統である生活4原則(あいさつ、時間、清掃、身なり)を発展さ

せ、生徒が進んで考え取り組んでいる「美山しぐさ」の追究を柱として自主性や社会性の育成を図っている。1学期生徒会長の「僕たちには積極性と表現力が足りない。向上させよう」という熱い思いを受け生徒会活動が継続展開してきた。現在自己評価が向上するだけでなく地域からの高い評価も得ている。生徒全員が卓球、バレー、ボール、吹奏楽のいずれかの部に所属している。少ない部員ではあるものの、運動部は地区大会では上位に入賞する常連校であり、吹奏楽部はコンクール入賞だけでなく、地域でも訪問演奏等で活躍している。今後は、地域の拠点校として地域との交流を更に深めるとともに、「美山しぐさ」を中心とした生徒主体の活動を益々取り入れ、美山中学校の文化をより深く創造していきたい。



Special Interview



校長 松田 理

退職にあたって

この六年間、校長職を全うできたのは教職員、また教育後援会や地域連携アカデミアほか、多くの皆様のご支援のお陰であり、心より感謝申し上げます。

私が本校に赴任して何が出来たのかという問いに、未だ自分なりの明確な結論を出せておりません。しかし、常に誠実に、ある時は覚悟しながら学校運営に努めてきたつもりです。学校教育法に、高専は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とすること。また、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの。」とあります。私はこのことを絶えず意識して來たつもりですが、これまでの来し方に一片の悔いもないかと問われれば、そうではありません。特に「教育は国家百年の大計」とか「高専教育は高く評価されている」と言われながらも、財

～退職にあたって～

政論が優先されて来たことが非常に残念です。つまり、我国を背負って立つ優秀な技術者人材を育成し高い評価の高専に対しても、国家財政を理由に教育体制の縮減を求める流れがあり、これに歯止めをかけられなかったことです。

これから15歳人口減少下で、高専はどのような体制で、どのような人材を育成し、どのように産業界に貢献すべきかを考え行く必要があります。未来は過去と現在の上に立脚するもので、現状を見極めながらPDCAサイクルを回さねばならないでしょう。いずれにせよ、福井高専が学生や保護者にとって魅力的かどうかを視点に、社会の要請に応える学校として存立し続けて欲しいと思います。論語に「教えありて類なし」とあり、「どんな能力の人間も教育によって向上させることができる」と教育の重要性が示されています。学生の皆さんには、自分の可能性を信じて学業に励み、夢を追い求めて欲しいと願っています。

最後になりますが、福井高専が地域と共に益々発展していくことを祈念して退職の挨拶とします。



機械工学科 安丸 尚樹

退職と「達心志」

36年前企業を退社し、教員免許取得時から抱いていた教育に携わる喜びと研究から遠のく寂しさの中、故郷で教職の道をスタートしました。当時はゆとりがあり、行事が多く教職員も多数参加していました。赴任した年の体育祭では5種目ほど参加し、リレーでは200mも走り驚いたことを覚えています。文月祭や高専祭では職員コーラスに参加し、越前海岸から高専まで夜通し歩く深夜ウォーキングなど、学生と一緒に多くの行事を楽しみました。その後、担任、寮務、補導、教務などを務めながら、教育の難しさや楽しさなど貴重な経験を積むことができました。週5日制開始、第1回留学生、専攻科新設、JABEE受審、校舎大改修、福井豪雨や新型インフルエンザなど懐かしく思い出されます。

課外活動としては、全国大会主催のため赴任直後にハンドボール部顧問になり、熱心な学生に支えられながら28年務めました。また、20年間ロボコンを指導し、国技館の11回連続出場や大賞など、何度も目頭が熱くなりました。3年前からデザコンAM

デザイン(3Dプリンタ)部門を担当し、退職の年に入賞することができました。

研究面では県の産官学連携事業(平成13~18年)でレーザーに関するテーマに巡り会え、特許取得や科研費の連続採択など、高専で十分研究ができる事を実感できました。

家に「達心志」と書かれた古い額があり、時々志の大切さを学生に話しています。たくさんの教職員や学生の皆様に助けられ、学生のために休まず仕事ができ、赴任時の志に近づけたことを心より感謝申し上げます。

長い間お世話になりました。福井高専の一層のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。



Special Interview

～退職にあたって～



電子情報工学科 下條 雅史

定年にあたって

私は、平成4年、37歳のときに、講師として、福井高専に採用していただきました。それ以前は、県立高校の数学の教員でした。一般的な高校は、生徒数に対して教員定数が非常に少ないよう思います。新しい学校に赴任するなり、クラス担任をし、やつしたことのないスポーツ部の実際の指導をせねばなりません。また、高専なら、事務職員の方にしていたい多くの事務作業もしなければいけない上、勤めていた高校の多くは、進学より就職する生徒が多い学校で、授業のことより、身なりや生活態度の指導ばかりに時間を取られてしまい、自分の力不足は棚に上げて、嘆くことの多い日々でした。

そんな中、周りの方々のご理解とお力添えで、高専の教員とな

れたことは大変な幸運でした。この学校では、学ぶ意欲に満ちた学生の皆さんと建前より真に思うことを話せる。きちんとした準備をして、授業をすれば、きちんと評価してくれる。自分自身も研鑽して、新しいことを形にすれば、それも評価して貰える。それは、当り前のことのようですが、それまでを思うと、この学校へ来ることができて、本当に、嬉しかったことを覚えています。以来、四半世紀勤めてきて、今は、学識、技術、人柄ともに、自分を超えて成長した卒業生たちが、いまだに「先生」と呼んで訪ねてきてくれる事が、この上ない喜びです。

最後に、自分のような力不足の者が、このような素晴らしい学校で、無事に定年まで辿りつくことができましたのも、先生方、技術職員、事務職員のご指導とご鞭撻の賜物です。謹んでお礼申し上げます。お陰様で、充実した職業人生となりました。誠にありがとうございました。まだ、暫く、お世話になりますので、今後ともよろしくお願いします。



総務課企画推進室 伊藤 奨

挨拶に添えて徒然なる雑感を

この3月をもちまして、定年と言うゴールテープを切ることと相成りました。まだしばらくは、再雇用という形でクールダウンの期間を頂戴しておりますが、一先ず区切りと言うことでごあいさつ申し上げます。

世界に羽ばたく人材育成の一翼を担うなどと理想に燃えて文部行政を目指したわけではなく、単に長男だから地元に戻ろうと考えて公務員試験を受け、学校ならば福利厚生施設に不自由はないだろうと早く考えて福井高専に奉職した身ですが、途中で金沢大学の電算機室に半年、福井大学に4年、福井医科大に5年半と都合10年程、他大学勤務を経験した以外、福井高専で大過なく勤めさせていただけたのは、ひとえに諸先輩方の辛抱強いご指導と職場仲間の生暖かいサポートのおかげと深謝申し上げるところであります。

振り返りますと、私が福井高専に奉職した昭和57年は、第2次石油危機後の景気停滞長期化の煽りで公務員の人勤が凍結された年でした。昨今の低成長時代からは隔世の感がありますが、不景気と言っても当時の実質経済成長率は3.8%もあったのにベースアップゼロ!! 「公務員って年末にもうひと月分のお給料

が出るんですってよ。」などという世迷言に惑わされ、裏切られて私の公務員生活はスタートしました。

昭和60年代とともに訪れたバブル景気だって、世間の浮かれ具合程に恩恵を受けた記憶はございませんし、逆に国の出先機関等の法人化に抗うことなく、平成16年には大学と同様に法人化の憂き目にあう等、公務員としての良い思いはありません。

結局、学校事務とは言いながら契約や支払いと言った会計事務からスタートし、事務電算化の推進と称して汎用システムの導入・運用のためCOBOLと悪戦苦闘したり、大学統合の際はキャンパス間ネットワークのVPN構築に無い知恵を絞ったり、地域連携イベントや外部評価の資料作りに溜息を付いたり、果ては創立50周年記念イベントの企画運営に四苦八苦したりと、学生と直接かかわる学務課以外の業務ばかり携わってきました。それでも、卒業式の会場で担任の教員と写真を撮り合う学生の笑顔を見るたび、世界に羽ばたくは置いといて、ちょっとくらいは人材育成のお手伝いは出来たのではないかと密かに満足している自分がいます。

最後になりましたが、教職員皆様のご活躍と福井高専の益々の発展をお祈り申し上げ、感謝の言葉と致します。37年間、有難うございました。

Special Interview



学生課課長補佐 堀江 和澄

最後が学生課でよかつた

昭和54年3月福井大学教育学部家政科の技官として採用されてから、はや40年。自分でもびっくりするほど、長い年月ですが、今となってはあっという間に過ぎ去った感じです。採用から3年後に、希望して事務官となり、教育学部庶務係、工学部用度係、経理係、会計課用度係、出納係、総務係、医事課収入係(福井医科大学)、評価課地域連携係、研究推進課研究協力係、同課補佐と福井大学、福井医科大学では様々な部署を経て、平成25年に学生サービス課に異動し、学校だったら一度は是非!と思っていました。そして平成27年7月、福井高専で学生課に配属され、また学生相手の仕事ができ、なかなかいい仕事人生だったなと思っています。

福井高専では、職務上、学生の窓口対応をあまりする機会がなく少し残念でしたが、長岡技術科学大学との連携事業で、英語特講、数学特講の授業に関わり、学生と一緒に授業を聞いたこと、高専体育大会の応援でいくつもの会場を回ったこと、ロボコンでは、福井高専ジャンパーと鉢巻姿で「がんばれがんばれ福井」と大声を張り上げて応援したことなど、高専の学生課ならではの経験ができたことをとても嬉しく思います。

また、私事ですが、昨年夫が亡くなるという、人生の中で最も悲しくて辛いことがありました。入院の付き添いや葬儀で、仕事では大変ご迷惑をおかけしましたが、周りの皆様のお心遣いや助けがあり、何とか切り抜けることができました。とても感謝しております。

最後になりましたが、福井高専の益々のご発展と、教職員の皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

～退職にあたって～



～学校通信～



平成30年度 福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

環境都市工学科5年 森 真七会 生産システム工学専攻2年 林田 剛一

校長特別賞

第53回全国高等専門学校体育大会・優勝(個人)

水泳部 (4×100mフリーリレー)	電子情報工学科2年 山田 耕太郎
	環境都市工学科2年 青山 開
	環境都市工学科2年 山口 英真
水泳部 (4×100mフリーリレー、200m背泳ぎ)	環境都市工学科4年 定兼 拓永

第29回全国高等学校アマチュア無線コンテスト
高校マルチオペレータ7MHz部門・優勝(団体)

アマチュア無線研究会

校長賞

第29回全国高等専門学校プログラミングコンテスト「学生総合評価賞」受賞

北陸イノベーショントライアル2018キャンパス部門「最優秀賞」受賞

電子情報工学科4年 大瀬 由符音	電子情報工学科4年 奥村 星香
------------------	-----------------

電子情報工学科4年 道關 海斗	電子情報工学科4年 向井 玲椰
-----------------	-----------------

電子情報工学科4年 村上 智哉	
-----------------	--

北陸イノベーショントライアル2018キャンパス部門「最優秀賞」受賞

生産システム工学専攻2年 前田 勝紀	
--------------------	--

第15回全国高等専門学校デザインコンペティションAMデザイン部門「優秀賞」受賞

機械工学科5年 松田 英孝	生産システム工学専攻2年 小林 大貴
---------------	--------------------

第14回関数グラフアート全国コンテスト「特別賞」受賞

物質工学科2年 杉森 麻那	
---------------	--

校長賞

第53回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体・個人)

水泳部(男子団体)		
水泳部(4×100mメドレーリレー)	F1	岩田 純弥
	物質工学科2年	西端 千遼
水泳部(200m個人メドレー)	電子情報工学科2年	山口 憲人
テニス部(男子団体)		
テニス部(男子個人)	物質工学科3年	内田 大智

奨励賞

TOEICにおいて成績優秀者

機械工学科4年 WAN MOHAMAD AMIRUL BIN WAN MOHAMAD YUSOFF	
---	--

電気電子工学科4年 木下 諒星	電気電子工学科4年 山本 真嘉
-----------------	-----------------

電気電子工学科4年 TAN JI WEI	
----------------------	--

物質工学科4年 AMIL HAQUEEM BIN ZAINAL ARIFFIN	
---	--

第19回IARU ARDF世界選手権大会・出場(M19クラス日本代表)

アマチュア無線研究会	電気電子工学科1年 根本 真響
------------	-----------------

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が21、文化部が6、同好会が18あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 卓球部

卓球部は週に5日活動しており、主に各々の戦い方を鍛える練習を行っています。部員同士で切磋琢磨していく毎日の練習はとても楽しく、充実しています。今の目標は高専大会での北陸地区優勝と全国大会への出場です。

指導教員 山本 幸男、青山 義弘、坪川 茂



体育部 女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は、2年生から5年生まで合計16人と顧問の先生方と一緒に活動しています。石川高専と富山高専に勝つことや、一人一人のスキルアップを目指して日々練習しています。初心者、経験者大歓迎です！初心者でも先輩が丁寧に教えてくれるので安心してください。ぜひ一緒にバスケしましょう！

指導教員 江本 晃美、後反 克典



体育部 バドミントン部

経験者も初心者も各々が目標を持って、楽しく練習しています。全国高専大会出場を目指し頑張っています。初心者経験者共に入部大歓迎です。ぜひ1度体育館へお越しください。

指導教員 斎藤 徹、西野 純一、小越 咲子



体育部 水泳部

水泳部は部員が20名程所属し、日々練習に励んでいます。今年度は北陸地区高専大会4連覇を成し遂げ、全国高専大会で4×100mフリーリレー、200m背泳ぎで優勝することができました。

指導教員 加藤 敏、西 仁司



体育部 合気道部

合気道部は、水・金・土の週3日の稽古を通して、心身ともに鍛えています。先輩と後輩の仲がとてもよく、和気藹々とした雰囲気の中で切磋琢磨し合っています。興味がある方は体育館横の武道館までお越しください！

指導教員 松浦 徹、松井 栄樹、佐藤 匡



文化部 モダンミュージック部

経験者も初心者もそれぞれがバンドを組み自分の好きな音楽に取り組んでいます。ロックからポップ、アニソンまで様々なジャンルのバンドがあり、学校祭でのライブはみんなが汗を流し、とても盛り上がります。音楽が好きな人は誰でも大歓迎です。

指導教員 森 貞

その他の部・同好会一覧

体育部門

- ・男子バスケットボール
- ・ラグビー
- ・野球
- ・軟式野球
- ・男子バレーボール
- ・女子バレーボール
- ・ソフトテニス
- ・柔道
- ・サッカー
- ・少林寺拳法
- ・空手
- ・ソフトボール
- ・ハンドボール

文化部門

- ・ロボット
- ・エレクトロメーティング
- ・英語
- ・囲碁・将棋

同好会

- ・天文
- ・茶道
- ・IT研究会プロフォ
- ・日本現代視覚文化
- ・VIP
- ・サイエンスクラブ
- ・フットサル
- ・放送・メディア研究会
- ・ダンス

- ・音鍵研究会
- ・Structural Design研究会
- ・スポーツクライミング
- ・写真
- ・アマチュア無線研究会
- ・グラフ電卓研究会
- ・珈琲
- ・空間デザイン研究会
- ・小型模擬人工衛星

～学校通信～

平成31年度 教育後援会総会

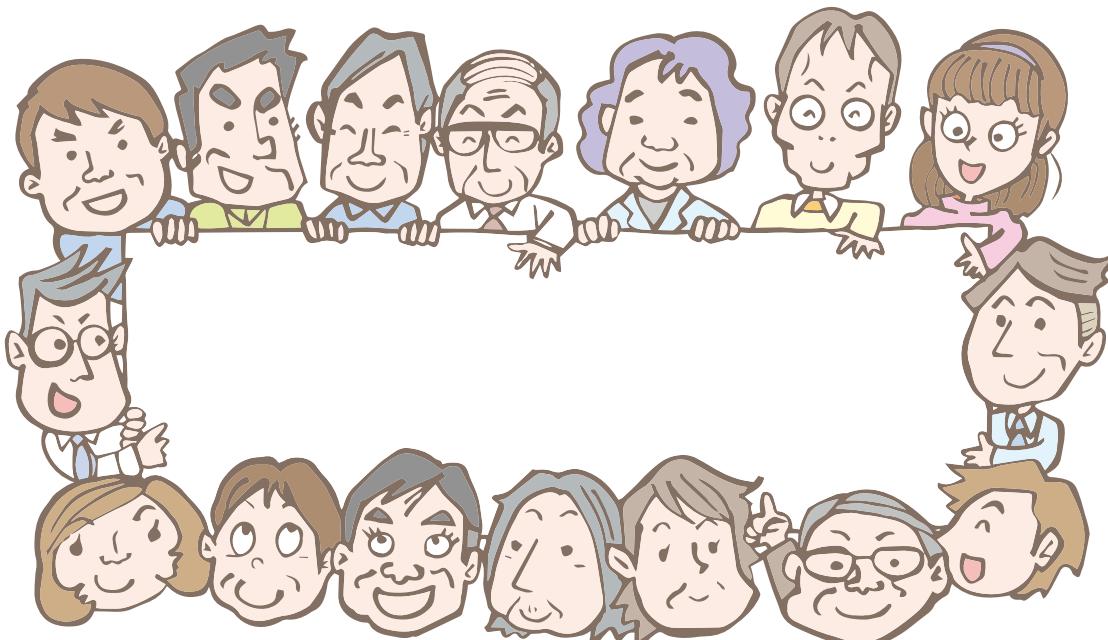
次のとおり総会を開催いたしますので、保護者の方はご出席下さい。

日時 平成31年4月4日(木)正午から

場所 本校 第一体育館

会次第

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 開会 | 5. 報告事項
学校状況について |
| 2. 会長あいさつ | 6. 閉会 |
| 3. 校長あいさつ | |
| 4. 審議事項
①平成30年度事業報告(案)及び決算書(案)について
②平成31年度役員選出について
③平成31年度事業計画(案)及び予算書(案)について
④その他 | |



平成30年度学校行事写真



明るい選挙出前塾



ロボコン校内審査会



北陸地区高専体育大会結団式



ひまわり教室(鯖江警察署)



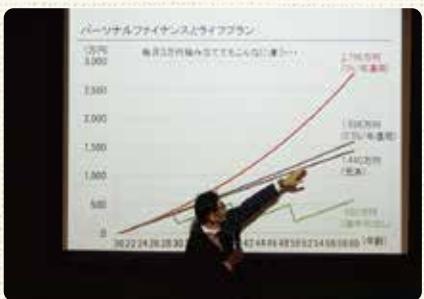
服育講演会



クリーン大作戦



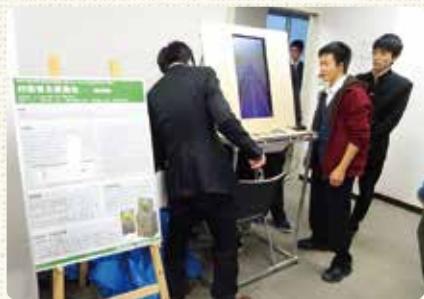
弁論大会



パーソナルファイナンス講習会



SNSトラブル防止講習会



キャンパスプロジェクト発表会



校長表彰



防災訓練

編集後記

本科5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。専攻科2年生の皆さん、修了おめでとうございます。5年生が入学した時に私も本校へ着任し、同じ新入生の気持ちで過ごしていましたが、この5年間で私自身学ばせてもらうことが多かったと思います。これから先、様々な困難が待ち構えているかもしれませんのが、皆さんの有り余る若い力で新たな時代を切り開き、活躍されることを願っております。(相場)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：平成31年3月20日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111